

# 連携医療機関のご紹介

今回は、西区に新規開業された『こめかみ内科・外科クリニック』米神 裕介 先生です。



米神院長

## こめかみ内科・外科クリニック

〒733-0821  
広島市西区庚午北2丁目22-4  
高須サンフラワービル 2F  
電話 / 082-208-2776  
院長 / 米神 裕介  
診療科目 / 内科、外科



サンフラワービル外観



入口 受付

### ○これまでの歩み、について教えてください。

幼少期は中区に住んでいましたが、おたふく風邪が元で重い髄膜炎を患い、2歳の誕生日を県立広島病院入院中に迎えました。6歳頃まで定期的に通院して脳波を確認していました。4歳頃には虫垂炎で手術を受け、その後西区へ引っ越した後もよく体調を崩し、その度にかかりつけの医師が昼夜を問わず親切に対応してくださり、子ども心に医療を身近に感じていたと思います。

医師を志すきっかけのような出来事はなかったのですが、幼少期の経験が後押しになったと思います。自治医科大学へ進み、地域医療に貢献する総合医を志して医師になりましたが、県立広島病院の初期研修で外科の先生方の働きぶりに感銘を受け、消化器外科を志すようになりました。その後僻地医療に従事した後に再び県病院の外科で研修を受ける機会をいただき、胃がんの手術を数多く経験させていただきました。その後自治医科大学と関わりの深い東京の病院へ勤務し、手術に明け暮れる日々を送りました。その後のれん分けの形で新たな病院の立ち上げに参加し、外科の診療や手術の体制を立ち上げる経験もさせていただきましたが、いずれは広島の地域医療に貢献したいと考えていましたので、広島西医療センター勤務を経て2025年4月に開業しました。

○診療の上で、大切にされていることを教えてください。  
いわゆる、「かかりつけ医」、

つまり内科でも外科でも、困った方をまず診ることで。また外来の限られた時間ではありますが、検査結果や治療方針など「わかるまでいいいとお話する」ことを大切にしています。これは外科医時代に手術前の説明の大切さを痛感した出来事から学んだことです。

開業してみると予想より若い患者さんが多く、生活習慣病だけでなく、かぜや腹痛などの急性疾患が多い印象です。怪我や身体の痛み、片頭痛から喘息まで幅広い症状の患者様が来院されますが、特に睡眠時無呼吸症候群と骨粗鬆症に関しては、高精度の機器も揃えており、今後力を入れていこうと考えています。高齢の方には必要に応じ地域の介護関係の方と連携をとり、いずれは訪問診療も開始したいと思っています。

### ○県病院はどのようなところですか？

自身が勤務したこともありますし、今でも当時お世話になった先生始め、自治医科大学の卒業生や、よく存じ上げている先生が何人もおられます。日頃、患者さんの診療をお願いしても、いつも迅速に受け入れをいただいていると思います。

#### 【取材後記】

広電高須駅の目の前スーパーやドラッグストアも並ぶ住宅街に溶け込むように立つビルの一角にあるクリニックです。ゆかりのある西区で、ご自身の幼少期の病気の体験も踏まえ、地域医療の担い手として頑張っていこうとされていることが伝わってきました。今後とも当院との連携を宜しくお願い致します。

# もみじ



県立広島病院 ☎ 082-254-1818 (代)  
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

第208号  
2026.6.1  
発行

理念：患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。



総合診療科・感染症科



## マルチモビディティ時代 息切れ・発熱・むくみ

～それは一つの病気とは限りません～



総合診療科・感染症科  
主任部長  
原田 和歌子

### ◆マルチモビディティとは

近年、高齢化が進む中で、“マルチモビディティ（複数の病気をあわせ持つ状態）”の方が増えています。

特に高齢者では、「心不全と肺炎と認知症」「感染症と慢性腎臓病と慢性肝炎」など、いくつかの病気が重なって起こることが少なくありません。

このような場合、症状は一つでも原因は一つとは限らず、それぞれの病気が影響し合って状態を悪化させることがあります。

たとえば、「息切れ」は心不全だけでなく肺炎でも起こりますし、「発熱」はさまざまな感染症や病気が原因で起こり、加えて基礎疾患も一緒に悪化させます。また「むくみ」や「食欲低下」「元気がない」といった一見ささいな変化が、体調の変化を示す重要な手がかりとなることもあります。

こうした症状がみられた際には、まずは日頃から診療を受けておられるかかりつけ医の先生にご相談いただくことが大切です。普段の状態をよくご存じの先生が診察することで、より適切な判断や対応につながります。



### ◆かかりつけ医と協力しながら治療していきます

県立広島病院では、かかりつけ医の先生方と連携しながら、入院や専門的な管理が必要な場合に、全身の状態を踏まえた診療を行っています。一つの病気だけでなく、その方の状態に応じて、生活機能の低下をできる限り防ぎながら、住み慣れた地域での生活につなげることを目標に治療を行っています。

地域の医療機関と協力しながら、皆さまが安心して暮らせる医療を支えていきます。



## 県立広島病院からのお知らせ

### 6月のがんサロン

開催日時 令和8年 6月26日(金) 14:00～15:00  
場所 新棟2階 研修室  
テーマ 『泌尿器のがん』  
講師 泌尿器科副部長 浅海 昭宏 医師  
対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族  
問合せ先 当院での受診歴は問いません  
がん相談支援センター  
☎082-256-3561



電話か、窓口、二次元コードでお申し込みください

### 6/1より 駐車料金が変わりました

外来患者	6時間まで	200円
入退院時や手術立会、医師の要請により来院した入院患者の家族	6時間超	30分毎 / 200円
	24時間最大料金	1,500円
人工透析・化学療法 放射線治療の患者	6時間まで	無料
	6時間超	30分毎 / 200円
	24時間最大料金	1,500円
患者の見舞客	3時間まで	60分毎 / 100円
	3時間超	30分毎 / 200円
	24時間最大料金	1,500円
その他利用者		30分毎 / 300円

※入院患者の駐車場利用は原則できません。  
※入庫後 30分以内で出庫される場合は無料です。

教えて

Dr. 01

## マルチモビディティ時代における 多疾患併存高齢者の総合的急性期管理

当科では、原因が明らかでない症状に対する診断や臨床推論、教育を担うとともに、複数の疾患を背景に急性増悪を来した患者の全身管理にも対応しています。

高齢者においては、感染症を契機として、慢性閉塞性肺疾患、慢性心不全、肝疾患、神経疾患などの基礎疾患が同時に増悪することが少なくなく、日常診療においてもご経験されていることと思います。このような状況では、単一臓器の治療のみでは十分な改善が得られず、複数の病態を同時に評価しながら治療方針を組み立てることが重要となります。

これらの症例では、各病態が相互に影響し合うため、治療介入の優先順位とバランスが重要となります。呼吸状態や循環動態、腎機能、栄養状態などを総合的に評価し、個々の患者の予備力を踏まえたうえで、過不足のない治療を行っています。

当科では、バイタルサインや検査所見に加え、ADL、生活背景を含めた包括的評価を行い、急性期治療と並行して早期からリハビリテーション、退院支援、多職種連携を導入しています。「治す医療」と「支える医療」を一体として提供することを重視しています。

また、必要に応じて各専門医と連携・相談しながら診療を進めつつ、全体を俯瞰する立場として治療の方向性を調整し、専門的治療と全身管理の両立を図っています。

### ◆連携病院の皆様へ

地域の先生方におかれましては、「発熱、呼吸苦、腹痛などの症候を呈する症例」「肺炎や尿路感染症などの一般的な感染症の入院加療」「慢性疾患の増悪に対する全身管理」「診断が明確でない症例」「複数疾患のコントロールに難渋する症例」「入院適応の判断に迷う症例」などについて、ご相談・ご紹介いただければ幸いです。

かかりつけ医の先生方による日常診療を基盤としつつ、当科では急性期の全身管理を担い、状態安定後は速やかに地域での診療へお戻しすることで、それぞれの役割を活かした連携を大切にまいります。

今後も地域医療機関の皆様とともに、多疾患併存時代に対応した実践的な総合診療を提供してまいります。



## 医療ソーシャルワーカーからのメッセージ

### ◆患者さん・ご家族へ

私たち、医療ソーシャルワーカー（MSW）は、患者さんやご家族が安心して治療・療養に向き合うことができるように、さまざまな相談をお受けしています。

入院や病気は、体のことだけではなく、生活やお仕事、経済面、退院後の暮らしなど、多くの不安や悩みごとを伴います。私たちは、そうした「困りごと」に寄り添い、一緒に解決の方法を考える専門職です。

患者さんご家族にとって最善のかたちを一緒に考えていきます。どうぞ遠慮なく、ご相談ください。



### ◆地域連携室・がん相談支援センター

どなたでも無料・匿名で利用できるがんに関する相談窓口です。診断前や疑いの段階でも相談可能です。患者さんやご家族の不安へ寄り添い、生活や医療費などの経済面から、緩和ケアや仕事との両立など、がんに関するあらゆる問題についてサポートします。



### ◆入退院支援室

患者さんが住み慣れた地域で安心して生活を続けることができるように、医療と福祉をつなぐ役割を担っています。

入院中から退院後の生活を見据え、地域の医療機関や行政機関と連携しながら、ひとりひとりにあった支援を一緒に考えていきます。



### ◆地域の医療機関さま・支援者のみなさまへ

日頃より患者さま・ご家族を支えるためにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。急性期から回復期・在宅へと切れ目ない支援を実現させるためには、地域のみなさまとの連携が欠かせません。今後も「顔の見える関係」を大切にしながら、迅速で丁寧な情報共有に努めてまいります。

引き続き、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



## 清掃ボランティア活動を実施しました！

去る4月24日（金）に、毎年開催しているボランティア清掃を実施しました。

午前中まで少々雨模様でしたが無事開催でき、院長をはじめ当院職員が多数参加し、正面玄関まわりや裏庭、敷地外周にいたるまで、草抜きや落ち葉などの清掃を行いました。今後も清掃活動を通じて職員・地域とのつながりを大切にまいります。



## 脳心臓血管カンファレンス 【脳心臓血管センター長・循環器内科主任部長／上田 浩徳】

### 二次性高血圧の原発性アルドステロン症（PA: Primary Aldosteronism）と腎血管性高血圧（RVHT: Renovascular Hypertension）について

代表的な二次性高血圧には、PAとRVHTがあります。PAは副腎皮質でのアルドステロンの過剰分泌による疾患で、全高血圧患者の5～10%を占めると報告されています。病型としては、片側性PAであるアルドステロン産生腺腫（APA: Aldosterone-producing adenoma）と両側性PAである両側性副腎過形成（IHA: Idiopathic hyperaldosteronism 特発性アルドステロン症）があります。APAは高アルドステロン血症と低K血症を呈し、治療として外科的副腎摘出術による治療が可能です。一方IHAは、血漿アルドステロン濃度は正常～高値で、血清Kは正常値を呈し、治療法はミネラルコルチコイド受容体拮抗薬（MRA: Mineralocorticoid receptor antagonist）による薬物治療を行います。診断におけるスクリーニング検査は、血漿アルドステロン濃度（PAC）と血漿レニン活性（PRA）を測定します。ARR（=PAC/PRA） $\geq 200$ かつPAC $\geq 60$  pg/mLの場合を陽性とし、負荷試験・副腎CT・副腎静脈サンプリング検査などを引き続いて精査していき、確定診断します。また、ARR $\geq 100$ かつPAC $\geq 60$  pg/mLの場合は暫定陽性とされ、臨床的にはPRA（ng/mL/hr） $< 1.0$ と抑制されている所見も参考になります。

RVHTは腎動脈狭窄（RAS: Renal artery stenosis）の存

在下にレニン・アンジオテンシン・アルドステロン（RAA）系が亢進し、高血圧を来す疾患です。その原因の90%は粥状動脈硬化性腎動脈狭窄（ARAS: Atherosclerotic renal artery stenosis）で、RASの頻度は、高血圧患者の1～6%に認められたとの報告があります。RASの大部分はARASであるため、その頻度は加齢とともに増加し、脳血管疾患、冠動脈疾患、末梢血管疾患を合併している症例ではさらに増加することが推測されます。診断は、腎血管ドプラーエコー検査、CT/MRI検査、カテーテルを用いた大動脈造影や選択的腎動脈造影などによって行われます。治療には薬物療法と経皮的腎動脈形成術（PTRA: Percutaneous transluminal renal angioplasty）があります。RVHTの治療介入の目的は①血圧の正常化②腎機能障害の進展抑制③脳心臓血管イベントの発生抑制④生命予後の改善です。PTRAの施行については、大規模ランダム化比較試験の結果やガイドラインを踏まえて、有効性が期待できる症例選択を個々の症例で慎重に検討することや手技的な合併症に習熟した熟練度の高い術者を有する施設で行う必要があります。以上を踏まえ、当院では十分な検討のもと、臨床的に有用性があると判断される場合にはPTRAを行っています。